

# 洪作たちの息づく舞台

主人公とその仲間たちがいた場所を訪ねてみましょう。洪作は大正の頃、小学校時代を湯ヶ島で、中学校時代を三島・沼津で過ごしました。作品の舞台は、この二つのエリアに集中しています。

湯ヶ島は、子供時代を過ごした自然豊かな所で、おぬい婆さんと暮らした土蔵跡や、湯ヶ島小学校、共同湯などがあります。昔の少年たちは、とにかく自分の足でよく歩きました。家や学校のまわりだけでなく、みんなで集まっては、国士峠や天城峠までも一気に駆け登ります。

三島・沼津は、青春時代を過ごした、街のにぎわいにあふれた所で、下宿先の伯母さんの家や通っていた沼津中学などがあります。毎日一時間かけ、三島から沼津までの五キロの道を歩いて通っていました。また、友人たちと千本浜や香貫山などを遊びまわります。

「ふるさと湯ヶ島」と都会の沼津……洪作は、「しろばんば」「夏草冬濤」を通じてこの二つのエリアを何回も往たり来たりしました。湯ヶ島から大仁までは、馬車にゆられて四時間もかかりました。大仁は軽便鉄道の発着駅で、馬車の起点ともなっており、当時は大変にぎやかな駅でした。大仁からはおもちやのような軽便鉄道に乗って、約一時間で三島に着きます。三島駅（現在の御殿場線下土狩駅）からは、東海道線に乗り換えて沼津に向かいました。この間、湯ヶ島から三島・沼津への街道沿いには狩野川が流れており、馬車や軽便鉄道の車窓からそれを眺めては旅情に浸りました。また、沼津の御成橋の上から狩野川をのぞき込んで、故郷の湯ヶ島に思いをはせたりしています。狩野川によって、この二つの地域は結ばれているのです。

この他、三津の叔母さんの家に遊びに行く時には、軽便鉄道を途中の長岡駅（現在の伊豆長岡駅）で降り、三津のトンネルを抜けて約四キロの山道を歩きました。おぬい婆さんの故郷である下田を訪ねるため、湯ヶ島から南に向かったこともあります。そして、友人たちと沼津港から船に乗り、土肥の港へ上陸するところが、『夏草冬濤』のラストシーンとなっています。

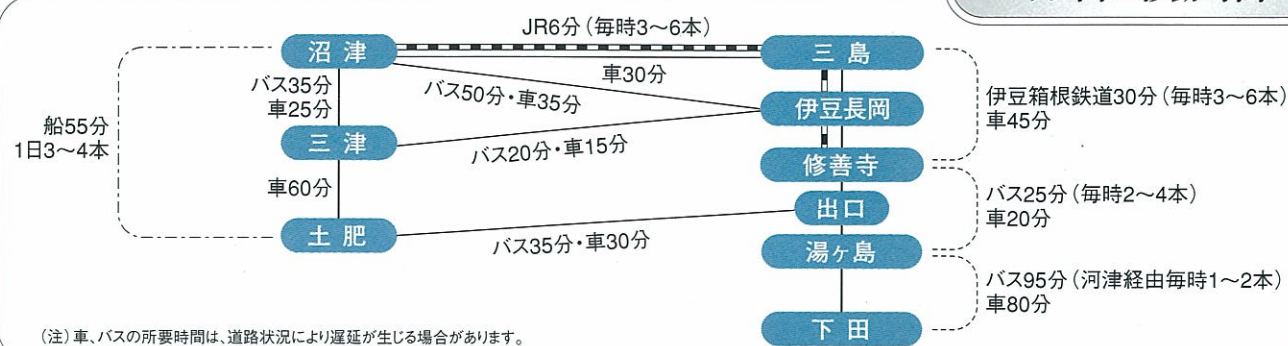


滑沢渓谷（狩野川の源流の一つ）



エリア全図

## エリア間の移動時間



## 目次

A	湯ヶ島	湯ヶ島中心部 P.5
		湯ヶ島周辺部 P.9
B	湯ヶ島～三島	P.11
C	長岡～三津	P.12
	『しろばんば』あらすじ	P.13
D	三島・沼津	三島～沼津 P.15
		沼津中心部 P.16
		三島・沼津周辺部 P.19
E	土肥	P.20
F	下田	P.20
	『夏草冬濤』あらすじ	P.21

## ガイドブックの構成と歩き方

このガイドブックは、左のような6つのエリアに分けて構成されています。

(※地図は左のページをごらんください。)

「井上靖文学散歩は初めて」という方は、まずは、Aの湯ヶ島中心部、またはDの沼津中心部をおすすめします。このエリア内は徒歩での散策が可能です。時間に依りて、昭和の森伊豆近代文学館を含む湯ヶ島周辺部、井上靖文学館を含む三島・沼津周辺部を組み合わせる方も良いでしょう。より作品世界を味わいたい方は、Bの大仁周辺や、Cの三津がおすすめです。もっと深めたい方は、Eの土肥やFの下田もよいかもしれません。ただし、広域になると、自動車・電車・バスなどでの移動となりますので、左のページの移動時間を参考にしてください。ご自身の持ち時間と好きな場面などに応じて、オリジナルな旅を組み立ててみてください。なお、各スポットへのアクセスや移動時間については、エリアごとのページをごらんください。